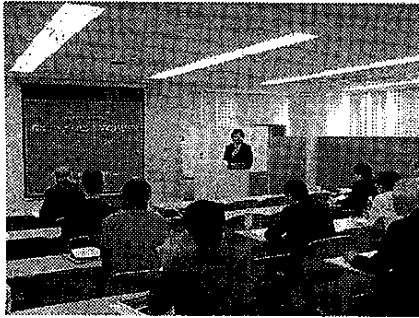


技術者と市民の 距離近づけ協働

建コン協九州が
環境技術講習会

建設コンサルタンツ協会九州支部（山本洋一支部長）は6日、福岡市博多区の八重洲博多ビルで2009年度第2回環境技術講習会を開いた。



写真。環境をテーマとするエコビジネス、コミュニティービジネスに対して、コンサルタントとしてどのような役割、アプローチが考えられるのか、具体例を示しながらの講習に参加者は熱心に聞き入っていた。

冒頭、あいさつに立った岩上憲一同支部技術部長は、「業界各社は厳しい経済環境の中で回復に向けた動きを模索している。今回の環境を切り口にした講習会が、少しでも新しいビジネスにつながれ

ば」と会の意義を述べた。

講習会では、深見聡長崎大学環境科学部准教授が「環境コミュニティービジネスの現状と展開」、環境テクノス（北九州市）の鶴田暁社長が「アジアにおける環境ビジネスの展開」をテーマに講演した。

深見准教授は、自ら手がけたNPO（非営利組織）法人「かごしま探検の会」の立ち上げから具体的な活動内容を紹介し、環境コミュニティービジネスの手法、地域や住民に与える影響などを解説し

た。この中で、「NPOの活動では住民の関心や知識を意見にまとめる段階で専門家の力が必要になる。住民と技術者の距離を近づけ、協働する仕組みづくりが求められる」と述べ、コンサルタントが参画することに期待を寄せた。

また、環境の総合コンサルタントを展開する鶴田社長は、中国・大連市で展開する環境ビジネスを具体的に紹介し、中国やアジアでの環境ビジネスモデルの今後の展開や課題を解説した。